

男子ハンドボール競技におけるセットアタック戦術構想の体系的分析

—フランス男子代表を事例として—

大浦和真 (202111560、ハンドボールコーチング論)

指導教員：曾田 宏、藤本 元、山田 永子

キーワード：均衡打破、柔軟性、多様性

【目的】

ハンドボールにおける戦術は、アタック戦術とディフェンス戦術が相互に影響を及ぼしながら進化している。特に、ルール改正や個人の競技力の向上により、1対1の重要性が高まり、新たな戦術構築が促進されている。本研究は、現在のハンドボール界をリードしているフランス男子代表（以下フランスと略す）を対象に、セットアタック局面における戦術構想を詳細に分析し、現代のセットアタック戦術の特性を明確にすることと、競技力向上のための具体的な指針を実践現場に提供することを目的とする。

【方法】

本研究では、2024年1月に開催されたMen's Euroにおけるフランスの10試合を対象にセットアタック戦術の映像を定性的に分析した。まず、セットアタック局面を時間的推移「オープニング>ゆさぶり>DFの対応>均衡打破」に基づいて観察し、それが「ショートクロス」「センターポスト」「ユーゴ」「トランジション」の4つのオープニングに分類できることを確認した。次に、オープニングごとにアタック戦術を図示し、重要な戦術的指針と考えられるポイントを記述し、類型化した。

【結果】

ショートクロスは、守備ラインを崩し局所的な優位を生み出すために用いられるオープニングである

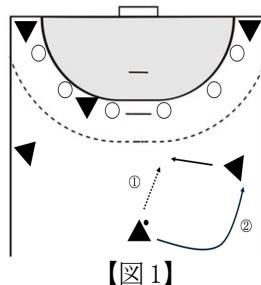
（図1）。ポストプレーヤーのアウト方向への動き（アウェイ）によって1対1を創出し、イン方向への動き（ジョイン）によって2対2を生み出していた。また、ポジションチェンジと連動したプレー展開は、アタック側に多様なバリエーションをもたらし、柔軟性のあるセットアタックを行うことを可能にしていた。

センターポストは、局所的な数的優位性の創出とポストとの連携を用いたオープニングであり、クロスやスクリーンを通じてアタックの基盤を形成していた（図2）。均衡打破を強く狙いながら、周りと連動することで有効な戦術になっていた。

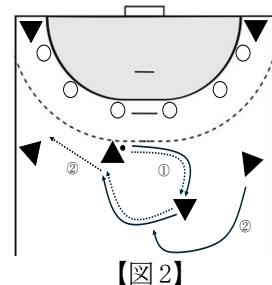
ユーゴは、ポジションチェンジやオフボールの動きを用いてスペースを創出し、守備ラインを崩すた

めに用いられるオープニングである（図3）。守備の動きに応じて、戦術の選択を行うことで多様性を生み出していた。

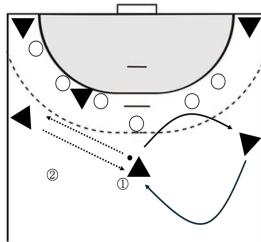
トランジションは、サイドがポストに移行し、一時的にダブルポストになることで、ディフェンス側の対応を変化させるために用いられるオープニングである（図4）。ポストの位置やバックの動きに変化を加えることで、フィジカルの優位性を生み出すことを可能にしていた。



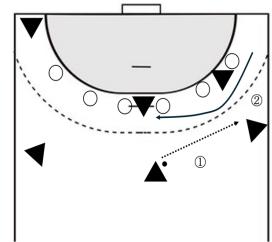
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

【考察】

フランスのセットアタック戦術の最大の特徴は、「ゆさぶり局面」におけるポストプレーヤーの動き（アウェイやジョイン）や、バックプレーヤー間のショートクロス、スクリーンプレーを活用し、「均衡打破局面」において局所的な数的および空間的優位性を効率的に創出する点にあった。これらの戦術は、各オープニングにおいて一貫して見られた。この戦術により、均衡打破局面での1対1や2対2の展開が効果的に構築され、攻撃の基盤が形成されていた。また、選手の即興性や創造性を戦術構想の中心に据えた仕組みにより、試合中の多様な状況に適応した柔軟なプレー選択が可能になっていた。